

第 11 次 横浜市消費生活審議会
第 2 回消費生活協働促進事業審査評価部会
会 議 録

日 時	平成 29 年 6 月 12 日(月) 10 時 30 分から 11 時 30 分まで
開催場所	松村ビル別館 501 会議室
出席委員 (3 人)	荒井委員、大森委員、河合委員
欠 席 者	—
開催形態	公開(傍聴者 0 人)
議 題	(1) 会議録確認者の選出について (2) 平成 28 年度消費生活協働促進事業について
決定事項	(1) 会議録確認者を、河合委員、大森委員とした。 (2) 平成 28 年度消費生活協働促進事業の評価を行った。
資 料	(1) 本部会委員名簿 (2) 実施団体一覧 (3) 事業評価表 (4) 実績報告書類等一式 (5) 事業相互評価シート (6) 申請書類一式
特記事項	なし

1 開会

河合部会長

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第2回消費生活協働促進事業 審査評価部会を開会いたします。

はじめに、現在の出席委員についてご報告いたします。委員総数3名中、只今3名の方が出席されており、横浜市消費生活条例 施行規則 第2条の規定により会議開催の定足数に達しております。

また、横浜市が保有する情報の公開に関する条例により、本日の部会は公開となります。本部会の会議録は、要約いたしますが、原則そのまま委員名と発言内容を公表させていただきますのでご承知おきください。委員の皆様におかれましては、ご発言される際に挙手いただきますようお願いいたします。

それでは、『2 議題(1)会議録確認者の選出について』に入ります。

本日の会議録確認者ですが、名簿の順番ですと私と荒井委員の2名となりますが、荒井委員におかれましては、今回で委員を退任されることになりましたので、大森委員に、前回に引続きで恐縮ですが、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

～委員了承～

よろしく申し上げます。

それでは、『2 議題(2)平成28年度 消費生活協働促進事業の評価について』に入ります。

事務局から説明をお願いいたします。

事務局

本日の進行についてご説明いたします。

これから、平成28年度に実施した事業の報告を、一団体ごとに行います。2団体ございますが、まず、1団体から事業報告を行います。次に、事務局から、行政からの評価である「事業実施プロセス相互チェックシート」のご説明をします。その後、団体ごとの評価について、委員の皆様にご審議いただきたいと思います。

また、本日お配りしております資料ですが、これからご報告する内容につきましても、資料3から資料6を参考にご覧いただきたいと思います。

お手元の資料1から6ということで、抜け落ちがないかご確認いただけますでしょうか。資料1が委員名簿、資料2が今回、報告を行います団体名、事業名、事業の目的です。資料3が事業の評価表です。資料4が事業の実績報告書類等一式です。資料5が事業相互評価シートです。最後に資料6は申請書類一式です。これらを元に団体に事業の報告を行っていただきます。

事務局からの説明は以上でございます。

2 議題

河合部会長

今のご説明について、何かご質問等はございますか。
それでは、これより事業評価に入ります。

事務局

1 団体あたり報告時間は 10 分程度になります。終了 1 分前になりましたら、合図を出させていただきます。

河合部会長

特定非営利活動法人 森ノオト 様でよろしいですか。
それでは、ご報告をお願いします。

特定非営利活動法人 森ノオト

では、パワーポイントで事業報告をさせていただきます。

私どもは、昨年度、「横浜産の調味料で地産地消と食の安全を学ぶ講座」ということで、8 回事業を実施してまいりました。

私どもの元々のスタートは、環境問題を暮らしの中から解決しようというところで、啓発の Web メディアを運営しております。その中で消費は未来の 1 票と考えて、地域密着の生活情報を伝えて、地域循環型の消費経済社会を作っていきたいと考えております。現在、1 つはエコを中心とした女性の仕事作りと、ローカルメディア講座を横展開するという 2 本柱で事業を展開しております。

本事業では、昨年度 8 講座を実施しまして、全部で、有料の参加者が 83 名、見学の方等を含めると約 100 名の方が講座に実際に足を運んでくださいました。私どもは、講座のレポートだけでなく、生産者の現場、産地に足を運びまして、その方々の想いですとか、安心安全のこだわりとか、そうしたものを記事にして、PR してきました。実際の事業の採択が決まったのが 5 月ということで、そこから準備をはじめまして、事業計画では 7 月からスタートしたかったのですが、チラシを作って告知ということですので、7 月からの開始が難しいということが分かりまして、8 月から毎月 1 回ずつ講座を開催しました。

第 1 回目が塩糰です。お味噌、糰を作ってらっしゃる、江戸時代から続く瀬谷区のお店の講座です。

第 2 回目は横浜の醤油の醸造所の方に来ていただきました。

第 3 回目は浜なしの焼肉のたれです。青葉区にある農家さんが、傷物になってしまった横浜ブランド産の浜なしを保存して、それを加工品にすることで、再活用していくということで、農家のお母さんの秘伝のたれを学びました。

第 4 回目はラー油ということで、横浜の地産地消の料理人の方が、横浜の農家さんと一緒に唐辛子を作って、それを横浜のごま油の会社とコラボしてラー油を作るということで、横浜の地産地消の農家さんにも来ていただく講座を開催しました。

第 5 回目は岩井のごま油の岩井徹太郎さんの講座です。

第 6 回目は、私ども森ノオトは設立時から、毎年味噌作りの講座を行

っております。今回は、川口糀店の味噌と第3回講師の浜なしの焼肉のたれを作ってもらっしやる三澤百合子さんの大豆を使いまして、横浜の味噌を作ろうという企画を行いました。実は、糀もお米も横浜市緑区産を使うことができたので、塩以外は全て横浜産ということで、味噌が作れたということになります。

第7回はケチャップです。実は横浜市はケチャップの発祥の地です。その由来ですとか、横浜の文化までを堪能しつくせる講座になりました。

最終回はあられです。あられというのはお菓子と考えられるのですが、けれども、講師の小森さんは地産地消に頑張っておられる方で、横浜市丸山さんのケチャップや岩井さんのごま油とか、そうしたものを使って、あられを作っているという、こだわりの話をお聞きした上で、さらに、あられを調味料としてトッピングするとか、揚げ物の衣に使うような調理法を教えてくださいながら、横浜の歴史や、横浜の経済の話を知ることができました。

本講座では、参加者が約100名いらっしゃいました。私ども10のレポートを配信しまして、どれもアクセスが良かったです。特にSNSで発信しますと、リーチ数というのが見えてくるのですが、全ての記事が1,000から3,000くらいという高いリーチ数をほこることができたということで、実際に講座に参加した方以外にも、横浜の地産地消についてPRすることができたと思います。講座自体も、講師の話と、実際に調味料を使った料理のデモ、そして、ランチがついて、お土産までつくということで、参加者にとってもお得で、皆さんに非常に満足と答えていただいております。

最後になりますが、こちらの講座をやっている時に、女性農業者の方とお話しをする機会がありました。私たち30代が中心となって、地産地消の啓発をしております。こうしたことが、横浜の農業を引っ張ってこられた農業者の方々に、非常に勇気を与えたということ、講座でも言っていただき、平成29年度の企画は、講座を実施する中で生まれてきました。横浜の地産地消を未来につなぐということ、様々な切り口で、今後とも発信していきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

事務局

10分をプレゼンテーションタイムと考えておまして、まだ3分ほどあります。委員の皆様のお手元には、資料4の実績報告書がございます。アンケートのまとめ等もつけていただいております。何か他にPRはよろしいでしょうか。

特定非営利活動法人 森ノオト

実際に参加者のコメントから、例えば、調味料のことだけを聞くわけではなくて、横浜という土地の魅力を感じることができた、歴史が分かった、市販の大量生産の調味料との違いがどのようなものであるかが分かったという声をいただきました。農業と関わっていらっしゃる方が多いので、横浜の農業について語っていただくことで、アンケートでも非

常に反応の良さが際立ったのかと思います。

河合部会長

ありがとうございました。それでは、事務局からの報告をお願いします。

事務局

行政側からということで、資料5をご覧くださいと思います。森ノオトさんの事業につきましては、資料5の1ページから2ページになります。事業の概要につきましては、説明していただいたとおりです。事業の実施期間については、8月から3月まで全8回ということで講座を行っていただきました。

資料5の2ページをご覧ください。「事業実施プロセス相互チェックシート」の説明を行います。こちらは、森ノオトさんが、団体ということで、ご自身で評価を入れていただいております。行政といったところには、経済局消費経済課が評価を入れております。こちらの評価基準は3つ、「よくできた」がA、「ふつう」がB、「あまりできなかった」がCです。一覧をご覧くださいますと、団体と行政で、違っているものがあります。違っているものについて、説明をさせていただいた方がよろしいかと思います。違っているものとしましては、②事業実施段階の5番目、「必要に応じ、関連する他の部署や団体などを意識しながら事業をすすめることができましたか」につきましては、団体はAですが、行政はBとなっております。行政がBにしたというところで説明させていただきますと、今回の講座の内容については、環境創造局といった横浜市の関連する他部署へのPRを行う積極的な働きかけが、私どもができなかったという評価でございます。取り組んだ内容では、他部署への周知で、消費者教育推進庁内連絡会議でチラシを1回配布したということのみになってしまったので、もっとスケジュール的なことですか、機会をつかんで、何かできたらAになったのかというところですか。あとは同じ評価になります。

私ども行政が団体を評価したところは、審査の時にもありましたが、この団体の特性であります、取材を元にした記事をWebで発信するといった情報発信力といった点、先ほど、団体からもWebのアクセス数が多かった、SNSを活用したといった発言がありましたが、講座に参加した方以外にも、講座内容を周知して、Webという特性で、長期的、広域的な啓発につながったといったところが挙げられると思います。

また、協働事業として実施したことに対する評価といったところでは、資料4アンケートによりますと、今回の講座をきっかけに団体の活動を知ったですか、今後この団体のWebメディアの記事も読みたいといった回答もありました。そのアンケートを読む限り、協働事業がきっかけで、森ノオトさんの活動がより広がったのではないかと、といったところが、私どもが高評価とさせていただいたところでございます。

また、他に2点良かったのは、1つは、座学だけでなく、料理のデモンストラーションや調味料を作る過程を実演で学ぶですか、調味料の

生産者の話を直接聞くといった手法が、森ノオトさんの特性が良く活かされていて、さらに参加する方も学びやすい、学びの気持ちを想起しやすいような雰囲気作りがされていたと感じております。

もう1つは、調味料やレシピの提供を行うといったことで、地産地消の食材、エコクッキングなどについて、実生活の中で取り入れてみようといった事が考えられるような講座になっているところがございます。

最後に反省点といいますか、今後の課題というところで、協働していくところで何ができたところ、広報よこはまといった横浜市の広報紙で月1回発行しているものがあるのですが、そちらに掲載することができなかったというのが、私どもの反省点です。掲載のスケジュールを情報共有する事ができれば、さらに市内の地理的、興味も多方面の方が参加いただくきっかけになったかと振り返っております。

プロセスの相互チェックシートにつきましては、自由記入欄のところに、私どもが申し上げた事以外に、森ノオトさんのご意見もありますので、ご覧いただければと思います。

私どもからは以上でございます。

河合部会長

それでは、委員の皆様から事業に対するご質問をお願いします。

荒井委員

交付対象事業収支決算書の中で、有料参加者数が3,500円のもの、3,300円のものがあります、どのように区別されているのか。

また、事業実施プロセス相互チェックシートの自由記入欄に、「青葉区内地区センターでは配架を断られるケースもあった」というのは地区センターの判断になるかと思いますが、どのようなことか。

それと、「苦戦している時」とあるが、おもったように集まらない回があったのか、といったところをお聞きしたいと思います。

特定非営利活動法人 森ノオト

有料参加者数につきましては、昨年度までは、NPO会員は、主催イベントは200円引いていたということもあり、そことの整合性をつけなくてはいけないということからです。NPO会員は、23名来ていただきました。

配架を断われたケースについてですが、会場選定は非常に悩ましい部分であり、行政の施設、地区センター等は、9時から12時という区切りで貸していて、ランチの提供になると、9時から12時、12時から15時まで借りなければならず、会場費が2倍になってしまうということがあります。また、行政の施設は、人気があって取りにくいということもありましたので、地元企業のショールームを使わせていただくかたちになりました。そちらですと、駐車場も確保できるということもありま

す。ただ、地区センターは、企業名が入ると、公平性を欠くということで、横浜市の事業であっても、会場が企業のショールームになると、チラシはダメですという事で、置いていただけないということがありました。非常に残念ではありましたが、青葉区内のお店に何件かまわって、手配りをしたりしましたので、地区センター配架の分はリカバリーできたのかなと思っています。

集客について苦戦することもあったというのは、毎月開催する講座で、毎月違う内容というのは、リピーターも多かったのですが、新しい方にリーチしつくせないということがあったのかなというのが、苦戦したところだと思います。また、同じ場所で、同じテーマで続けてきたのも、連続した開催のような見え方になったという反省もあります。

大森委員

8回講座の参加者の男女構成比、年代別について教えてください。

特定非営利活動法人 森ノオト

全ての方に書いていただいたわけではなのですが、アンケート回答があるものによりますと、男女構成比は95%が女性で40名、男性は1名いらっしゃいました。年代でいきますと、20代はいらっしゃらず、30代から60代までというかたちになります。どの世代の方もまんべんなく来てくださって、女性の方の関心が高かったのかなと思います。

大森委員

講座の開催は木曜日等が多いようですが、例えば、土曜日とか日曜日、休日に開催することはどうですか。

特定非営利活動法人 森ノオト

私どもの実施体制によるものですが、子育て中の30代女性が中心になって運営しているNPOといことがあり、土日の開催は、それぞれの子どもの学校や保育園の都合上、難しいといことがあります。

大森委員

交付対象事業収支決算書の人件費の内訳について教えてください。

特定非営利活動法人 森ノオト

講座の前に講師のところへ何度か訪れたり、取材をしたりですか、レシピの試作・検証を行ったりですか、チラシを配るために地元のお店を何件かまわったり、受付に関わる人件費、レポートを作成する人件費等にあてています。

河合部会長

今回の事業を行ったことで対象者が広がったということですが、今後、年代ですとか、男性への効果というか、拡大を考えてらっしゃいますか。

特定非営利活動法人 森ノオト

29年度事業は、青葉区以外の他エリアにも出ていこうと考えています。横の連携として環境創造局に後援を申請しています。また、JA横浜さんと話しをしまして、そちらの拠点を使わせていただくことで、エリアの広がりは見込めると思います。

ただ、食の講座ということで、男性の関心を広げていくというよりは、女性を対象にやっけていこうと思っています。土日のイベント開催についても動いているのですが、実施体制として、土日や夜が増えすぎてしまうのも動きにくいので、今年度も平日の日中の開催で、女性が主な対象になっていくのかなと思います。

河合部会長

ありがとうございます。では、特定非営利活動法人 森ノオトの事業内容について良かった点、改善点など総評を委員の方からお願いします。

荒井委員

地産地消イコール農作物というイメージがあるかと思うのですが、そこを調味料に広げたというところは素晴らしいと思いました。

大森委員

調味料の生産者の方に話しを聞いたり、考えたりする機会を持ったというのは、大変貴重な経験になったのではないかと思います。今後の食の安全とか、消費についての取組みに期待したいなと思います。

ただ、まずは女性を中心に開催というのも良いとは思いますが、男性をターゲットにして取り組んでいただければと思います。

アンケートの結果を見ると、喜んでいる方が多くて、大成功なのではないかと思います。地産の消費、フードマイレージという言葉は分かりにくくて、こういったものが、どのような効果を及ぼすのかということ盛り込んで、一步踏み込んだ内容になると良いのかなと思いました。

河合部会長

調味料は料理全体に関わるものですので、調味料に焦点をあてたのは、面白く、広がりがある着想点だと思いました。

協働の効果として、市全体に事業が広がったということで、今年度も事業を広げていこうということは、評価されるものだと思います。

30代、40代の女性がターゲットということであれば、Web中心というのは効果があると思いますが、そういったものにアクセスできない年代の方もターゲットにしていくということであれば、工夫が必要になるの

かといったことを感じました。以上になります。

ありがとうございます。お疲れ様でした。

河合部会長

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ 様 ご報告
をお願いいたします。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

お配りしている資料に沿って説明させていただきます。

私たちはエシカルというキーワードを掲げながら、今回の講座を組み立てました。エシカルというと、分かりにくいのですが、倫理的なという意味がございます。その背景には、私たちも今回やっていて気が付いたのですが、国連の持続可能な開発の目標という SDGs が自分たちにも影響があって、その中で消費者がどうあるべきか、どう貢献すべきかを私たちは考えました。やっている中で様々な人の意見を聞き、それを私たちはエシカルという言葉でしか表現できなかったのですが、持続可能な開発という中で、市民ができることを考えているときに、地域でゴミを減量しているとか、地域のもを食べるといった考えで、事業を展開してきました。

団体の特徴としてはまちづくりの NPO で、環境に特化した団体ではありません。どちらかというとメディアをやっていまして、メディア NPO というところがあります。ヨコハマ経済新聞、LOCAL GOOD YOKOHAMA、港北経済新聞といったメディアを運営しています。その中で地域の緩やかな活動主体と連携があって誰がどういうことをしていて、その所在を知っているということで、私たちがハブになって、既に活動されている人たちと一緒に、今回の講座を作るという組み立てになっております。

第 1 回目の講座は、一般社団法人かんきょうデザインプロジェクトの武松さんたちと一緒に企画をしました。エシカルという倫理的消費を考えた時に、自分たちが使ったものを、捨てる時の事まで考えて、買ったりにしているのかということで、食品ロスについての話題を取りあげて、現場でゴミ処理の事業者の方や、横浜市資源循環局の方に来ていただいて、お話しを伺いました。

第 2 回目の講座は、フェアトレードということで、横浜市栄区でかなり前から「ネパリ・バザーロ」というフェアトレードのブランドを運営している土屋さんのお話しを伺いました。彼女たちの特徴は、もう 1 つ NPO を運営していて、ネパールの女性たちの雇用開発、教育などにも力を入れて、持続可能な支援体制と雇用開発を日本の消費者と一緒に作っているところです。そこで学んだのは、売れるブランディングのためにフェアトレードを利用している企業が多いのだけれども、現場に行くと違いが分かって、現場の人たちのためにどれだけやっているのかということ、日本の消費者がチェックするのが大切だということをお話しいただきました。

第 3 回目は地産地消です。フードマイルという言葉がありますけれども、自分たちが住んでいる近くの物を食べるということは、様々なエネ

ルギーの節約になる、CO₂の削減に役立ち、緑地や農地の価値というものを自分たちで把握できるということです。こちらは、横浜市の農業関係のイベント等をやっている団体等と組み立てた講座になります。講師の荻部さんという方は、横浜市の農業で有名な方ですが、子どもを含めて30人近い方が参加して、横浜という大都市の中でも、すぐ近くで農業が営まれているという事を体感していただいて、地産地消に敏感な消費者になっていただきたいということで、企画しました。

第4回は、先ほどのかんきょうデザインプロジェクト武松さんと一緒に企画したものです。武松さんは、武松商事という横浜市の事業系のごみ処分をビジネスとしてやっていて、ネットワークがあるので、資源リサイクル事業協同会の方と特別にコースを組んでいただいて、においとか、音とかが分かるレベルまで近くに行き、見学することができました。ここに来て、実際に缶、ビン、ペットボトルなどが処理されている様子を知り、分別の大切さや、こういった労働環境でやっているのかを知って、その後の消費行動、ビンの物を買おうとか、水筒を持っていこうといった生活の行動変容を促すような、ショッキングな回になったかなと思います。

第5回は、市場での流通を考えてみようという回です。地産地消と言っても、そうはいかないのが現状です。私たちはスーパーマーケット等で、野菜や肉を買っていますが、どういう流通がなされているのかというのを、横浜の市場の見学をしながら、普段、消費者が入れないところまで、講師の藤岡さんに案内していただきながら、青果の流通がどうなっているのかですとか、1日にかなりの食品廃棄が行われるという現状を知ること、近くでの消費の大切さや、大量流通の矛盾みたいなものを、目で見て感じる回になりました。

最後はまとめの回になります。ここで私たちもSDGsのことを認識したのですが、講師の山本先生は元々、工学博士でいらっしゃる、壮大な話から始まったのですが、地球環境がこのままでは持たないということを知り、その中で自分たちがどういった選択をするかということ、あるいは、選択をする地域を作るかによって、地球にも影響があるということ、それは人間だけの問題ではなく、動物とか植物とかの事も考えるというエシカルな消費が必要であることを、宇宙の話や人間の細胞の話から解きほぐしていただいて、お話しいただきました。あと新しい問題としては、生殖医療ですとか、遺伝子治療とかも消費という分野の中で位置付けると、自分たちがお金を払ってでもそういう医療等を望むのか望まないのか、倫理的な基準というものが、必要になってくるだろうという事を教えていただきました。

以上になります。協働の取組み等については、質問の中で順次お答えできればと思います。

河合部会長

それでは、事務局からの報告をお願いします。

事務局

資料5の3ページ、4ページになります。

3ページにありますように、当事業につきましては、食育・食品ロス・地産地消、環境保全・リサイクル、フェアトレード・コミュニティ経済といったテーマを講座・セミナー、現場見学というような手法としても様々な形態で行っていただいております。

4ページをご覧ください。行政と団体で評価の異なる点といったところで説明させていただきます。

③ふりかえり段階の4といったところで、「期待された事業成果を得られることができましたか」といったところで、団体の方ではBをつけておりますが、私どもがAをつけたというのは、消費者市民社会の実現といったテーマの中で、多方面にわたる分野で講座を展開して、市民に参加いただけたということが、協働事業としての大きな成果であると思っております。

同じように評価が異なる点としましては、①事業計画段階の6番目、「事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか」といったところですが、こちらについては、私どもは、協定の締結や今後の事業予定についての記者発表を通じて、市民への周知はできたと考えておりまして、Aを付けさせていただきます。

その他、事業計画や実施計画の段階について、期間の短い中で取り組むことができましたが、細やかに連絡をとって、進捗状況に応じた取組みを相互にとることができたといったところを評価しております。

また、食品ロスに関する講座の卸売市場見学については、行政内部の他部署との連携についても双方が積極的に取り組むことができたと考えておりますので、このような評価にさせていただきます。

特に協働といったところでよかった点は、団体が持つネットワークを活かしつつ、様々な座学、現場見学といった工夫をこらした講座を実施することができた、そういったことで担い手の育成ができたといったところがございます。広報については、まだ努力ができたかなといった一方、ホームページの掲載や、ツイッター広報で、手法について色々な事を検討・実施できたのではないかと、というところで評価をしております。

簡単ではございますが、こちらで相互チェックシートの説明は以上です。

荒井委員

事業実施プロセス相互チェックシートの自由記入欄に「来年度以降は、受益者に負担していただくかたちで、こうした「消費者市民社会の実現」に資する取組みを自主的に実施していけたらと思う」とありますが、今回だけで終わりなのかなと思ったのですが、来年度以降の次の展開はいかがでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

次年度についてですが、SDGs とローカルということで 自分たちも事業としても何かやっていきたいと思っています。公正な働き方とか、環境にインパクトを与えない漁業とか、色々な 17 の目標がありますけれど、横浜に何がふさわしいかを学ぶ勉強会を開いたりしたいと思えます。私たちはシリーズで政策デザイン勉強会を開催していますが、そこで SDGs に関わるような回を開催したり、山本先生とネットワークができたので、先生の方で企業とエシカルに関するネットワークを作っているの、担当している方で横浜に近い方を招いて、ビジネスのあり方等の話を聞く機会を、今年度中にできたらと考えています。

大森委員

事業実施プロセス相互チェックシートの③ふりかえり段階の4が自己評価でBとなっていますが、少し詳しく説明していただけますか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

私たち内部の事情ですが、一緒に担当していた事務の人が途中で辞めてしまったことがあり、チラシの充実等ができなかったということがありました。

あと、参加人数が平均して20人くらいずつしか集まらなかったのもう少し参加してほしいところがあって、その辺りがもう少しできたらということなんです。

広報がタイミングよくできなかったことと、フィールドワークは天候に左右されますが、第4回は豪雨になって、キャンセルが相次いでしまいました。その辺りが、内容は良かったのにもったいなかったです。

大森委員

テーマが非常に高尚な感じがしました。興味深いタイトルではあるのですが、特に最後の講演ですね。一般の方には難しかったのでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

そうかもしれません。

大森委員

②事業実施段階の7「事業の実施について、市民に発信することができましたか」も広報という点でBということでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

私たちは、ネットの発信は得意なのですが、チラシを手にとられるかた向けの紙を使った広報が苦手なので、その辺りを強化しないといけないというところを感じました。そういうのは、さかのぼるとスケジュー

ールを管理しないといけないということになるのですが、ご迷惑をおかけしたところかなと思います。

河合部会長

参加人数が、延べ120人ということですが、内容からしてもったいないと感じました。何百人単位で来てもらっても良いものだと思います。参加者の年代や男女比はどうでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

年代は、思ったよりシニアの方が多かったです。あとは、主婦、女性の方が多かったり、第5回目の市場の回では、食のお仕事をされてる方が来られたりしていました。

河合部会長

やはりチラシということでしょうか。なかなかそういう広報が難しいということですが、その辺は横浜市と協働したりということでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

そうですね。簡単なものを作ることができたので、市のルートで置いていただいたのは、ありがたかったです。

河合部会長

今後展開していくにあたって、横浜市と協働というのはいかがでしょうか。

特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ

今回も市場の会議室を借りるのが大変だったのですが、市の担当者の方が説明していただいたおかげで、使わせてもらうことができました。市民だけだと難しいところを、そういった調整をしていただけた事はありがたかったです。

今後、私たち市民団体が考えていることが、長期的には政策の中で活かされていけば良いなと思っています。

河合部会長

ありがとうございます。それでは、特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボの事業内容について、良かった点、改善点などの総評をお願いします。

大森委員

重要なテーマについて語っていただいたと思っています。専門家の意見を聞いたり、現場の視察なんかもあって、とても価値のある活動だなと思うのですが、参加者数が少なかったという観点からみると、内容とテーマが消費者にとって馴染みが薄かったのかなと思います。その点で、広報で対応することで理解されていれば、参加者も増えたのではないかと思います。

今後も事業を継続されるということですので、成果を期待したいなと思います。

荒井委員

エシカルについては、私ども生活協同組合でも、今後、力を入れていこうと考えていますが、難しいというのがあります。今回の体験を通じて学ぶという講座は、全部参加できれば、知識が分かりやすく深まり、そこは素晴らしいと思います。やはり広報が課題ですかね。

河合部会長

色々な手法で取り組まれていたなという印象があります。ただ、一般消費者がついていけないところに達してしまったのかなと思います。もう少し分かりやすく広報していただくと良いかなと思いました。

今後、有料で実施されるということですが、どのくらい消費者の方に受け入れてもらえるかが、これからの課題だと感じました。よろしいでしょうか。

以上になります。ありがとうございました。

最後に事務局からお願いします。

事務局

本日は長時間に渡りご審議いただきまして、ありがとうございました。先々月、今年度の実施事業について審査いただいておりますが、そちらにつきまして、この場をお借りしてご報告させていただきます。現在、実施に向けて、選ばれた2団体と調整を行っております。事業の実施は7月以降ということです。実施されましたら、来年度はこのようなかたちで評価をさせていただきます。

なお、次回の協働の部会につきましては、来年の4月開催を予定しております。開催日程につきましては、改めて委員の皆様にご調整させていただきます。

また、本年8月以降に開催を予定しております第11次消費生活審議会でも部会の報告を行いますが、内容につきましては、別途、部会長と相談の上、報告させていただきたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

3 閉会

河合部会長

ありがとうございます。

それではこれで、平成 29 年度 第 2 回消費生活協働促進事業審査評価部会を終了いたします。ありがとうございました。